



来日早々に札幌、洞爺、登別、小樽観光をし、北海ソーラ祭りの練習見物も楽しみました。「北大祭と踊りの練習を見て、とても元気をもらった感じ。若い人の交流、学生同士の交流はすごく大事だし、お互いを理解できればこれからの交流がうまくできます」と東川と中国との相互交流のパイプ役を―と願っています。

2年前、東京で開催された学术会议で来日。それがきっかけで「日本と日本文化をもっと知りた」という思いが強くなったそうです。町の国際交流員として勤務を始めて早や2カ月。町にもずいぶん慣れてきました。

中国の大学受験は、共通試験の点数を自己採点して、第1志望、第2志望の希望大学を決めるのだそうです。第2志望が日本語学科でした。

日本語学科を選択した理由は、小さいときからいつもテレビで日

本のアニメを見て親近感があったから。「ドラえもん、ちびまる子ちゃん、だれでも知っています」。

日本に親近感を感じてきただけに、もっと交流が深まれば、どの思いが日に日に強まってきているよう。

「大雪山の景色がすごくきれい。旅行はお互いの経済のためになるので、中国の人々に紹介したい」。

中国では、毎年各地で貿易商談会が開かれているそうです。「中国人が旅行する時は、許可を取る必要があります。団体でなければいけません。東川町に来る中国人をもっと増やすためには、仲介業者や旅行会社が必要。中国に出掛けて行って商談会に参加すればいいと思います」。

来町して最初に思ったのは「お米がおいしい」こと。「黒竜江省のお米はおいしいといわれていて、中でも五常市のお米が一番有名だけれど、東川のお米のほうがすごくおいしい。外国、



黒竜江大学修士課程の学友と (2010年6月)



旭岳にも初登山しました (ラトビアから来ている高校生、台湾、シンガポール、ヨルダンから来町して日本語研修中の皆さんと一緒に、6月21日)

中国に輸出した方が良いと思います」。

◇ 中国では日本に留学したいと思っっている若者がいっぱいいるようです。

魯丹 (ロ・タン) さん

中国・黒竜江省チチハル市出身、30歳。東川町国際交流員。黒竜江大学大学院修士課程卒業、文学修士。中国ハルビン市社会科学院助理研究員 (大学講師に相当)。(財)自治体国際化協会 (通称JET、東京)のJETプログラム (語学教育等を行う外国青年招致事業)で来日。今年3月まで1年間、東川町国際交流員として役場に在籍した王雪 (ワン・シュエ) さん (中国・上海市) に代わって、1年間の予定で6月から東川町国際交流員。勤務は役場地域活性化課。

「ハルビンは旭川市と友好都市提携をしていて、大学生も留学してきています。でも東川にはまだ民間の交流団体がありません。中国とは人の交流が始まってまだ2年目なので、これからですね」。



役場行事のお手伝いもすっかり慣れました (6月4日、フィンランド教育研究大会の会場で)